2014 年支援活動

②　「和光３・１１」

―Ⅰ　３月「和光３・１１を忘れない」イベント―

―Ⅱ　6，9，12 月「和光３・１１つながりカフェ」―

３１１　有志
齋　藤

2012 年秋、所属する和光市民合唱団より、「支援活動ボランティア経験者」としての推薦で、実行委員会に加わり、「和光３・１１を忘れない実行委員会」事務局長、「和光３・１１つながりカフェ」副委員長としての活動を、一部「３１１　有志」メンバーとともに担っています。

昨年は、３月の「和光３・１１を忘れない」イベントや３回開催した「和光３・１１つながりカフェ」（和光市と近隣への避難者の集い）の企画、運営に携わりましたので、ご報告します。

Ⅰ　３月「和光３・１１を忘れない」イベント

３月１５日（土）

その１：「わこう　つながりカフェ」
～３．１１震災を忘れないために　自分に出来ること～

主催：和光市社会福祉協議会。
於：和光市文化センター「サンアゼリア」小ホール。

小ホール前のロビーでは、２日間行われる「さくら募金」や、大船渡物産展や避難者の手作りグッズ販売などのコーナーも。１１時開始。最初は、大船渡からの津波の語り部。ＤＶＤ映像を見せたあと、講演。残念ながら、私は会場入り口での「さくら募金」募金箱見張り、で半分聞きそびれたが、当時の映像を見たあとの講演なので、リアリティがあった。

そのあとが、小学生らの「御箏」での「花は咲く」などの演奏。
そして昼食は、大船渡産地直送の魚介類を出す、志木駅近くの「越喜来や」のあら汁とひとり暮らし高齢者相手のボランティア団体による「混ぜご飯」やいかせんべい。３．１１の和光市近郊へ避難されている方々、50 名もご招待。半日、様々な出し物で楽しまれていた。午後からも東北から成増団地に避難している方々の「コスモス会」合唱。それにパントマイムなど盛り沢山。
和光市社協の頑張り、凄い！

その２：ふるきゃらMUSICAL「ドリーム工場」

主催：「３．１１を忘れない会」ふるきゃら実行委員会。
於：「サンアゼリア」大ホール。

６時開演。大ホール。岩手県久慈市の実在の縫製工場の話をモデルにしたミュージカル。全国で巡業している劇団だ。今回は、和光市商工会や隣の朝霞法人会が共催。津波で工場が流されたが、従業員たちの頑張りで再開にこぎつける話だ。ミュージカルなので、当然、「伴奏」がある。舞台右手の張り出しには、ドラム、トロンボーン、キーボードなどで、様々な曲を奏で、多彩な登場人物が歌い、踊る。私は昨年、すでに見ているので、２日間通じて行う「さくら募金」の係。

大ホール入口には、昼の小ホールから移動してきた、正面に「さくら募金」の「花びらメッセージ貼り付けシート」や和光市民有志の「渡和の会」の大船渡物産販売コーナーに加え、このミュージカルのモデルになった実在の縫製工場製品の販売コーナーや和光市のマスコットキャラ「わこうっち」と「さつきちゃん」のロールケーキ販売コーナー。経営者やその家族が多かったせいか、「募金」も「販売コーナー」も順調。

その３：「和光３．１１を忘れない～そして前へ」コンサート

３月 16 日（日）

主催：「和光３．１１を忘れない」実行委員会　和光市文化センター大ホール。

―ホワイエ・受付―

１時ちょっと前、開場。玄関前のホワイエは中学生の制服だらけ。和光市内にある３つの公立中（大和中、２中、３中）から、中学生５３人がボランティアスタッフとして制服で参加。「ロビー・会場廻り」「販売コーナー廻り」で、「和光市」の赤いジャンパーの大人に混じって、それぞれ仕事を果たしてくれて、大いに助かる。これら「大人」スタッフの大半は、「３１１　有志」の仲間。そのメンバーは、皆、首から青い紐の名札を下げている。その数、約 30 人。

これらを見届け、楽屋へ。こちらでも、若草色のジャンパーの「大人」のボランティアスタッフが、参加団体誘導などで、動き回る。さらに話芸のプロ、「３１１　有志」の仲間でもある司会役の２人に台本には書けなかった追加変更や注意を打ち合わせ。

第Ⅰ部「「わこうどからのエール」

１時半開演。まず、伝統芸能２つ。和光市と板橋区赤塚の獅子舞。本来は、神技。お神酒を入れて、神社などで１時間以上の舞。そもそも、ホールの舞台で演じるようには作られていない。それを２０分に短縮、と無理なお願い。残念ながら、赤塚の方は、せっかく、舞台の進行に合わせ、「解説」が入るが、笛、太鼓の音に消され、良く聞き取れない。また、同じような舞２つ。昨年の「違った舞」の組み合わせに比べ、50 分間は観客にも長く感じたよう。

休憩はさんで２時 40 分。５つの合唱団が今回のイベントに即した選曲で、持ち味発揮。
まず、新座少年少女合唱団は、「ママに捧げる歌」「ラ・ノヴィア」。そして、昨年 12 月公演した児童詩劇「うずら」の児童合唱団は、「雀の学校」「靴の歌」。２つとも、小中学生の可愛らしい歌声ながら、選曲もかぶらず、場内を沸かせた。次は、一転して、混声「SAI コーラスジャパン」。「越天楽」「荒城の月」「芭蕉布」。時代と四季の移ろいが感じられた。大人の合唱ならでは。そして、朝電車の中で、会った「慶應志木校ワグネル・ソサイエティ男声合唱団」。昨年 12 月童謡詩劇「うずら」で共演、顔なじみになった。５日後の彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールで定期演奏会にむけ、３泊４日の合宿中、４１名中１４名がインフル感染。全員マスク姿の２７名で歌った。。「手紙」「明日へ続く道」「斉太郎節」。圧巻！場内は、メリハリの効いた、抑揚と声量のある男声の魅力に感動。涙する人もあちこち。「音楽の力」を観客全員、体感した。最後は「和光市立大和中吹奏楽部」。今回は、楽器無しでの「ふるさと」。そして、「花は咲く」。一番は大和中、その後それぞれの合唱団が順番に加わり、最後は、観客全員で歌った。

第Ⅱ部「避難者の今」

３時半。東池袋の公共施設に避難している宮城県仙台市若林区荒浜の佐藤さん、福島県双葉郡大熊町の金子さんが登壇。「３．１１当日、その直後、そして今の暮らし」をインタビュー。佐藤さんは海岸から５００ｍの家を完全に流され、金子さんは洋品店も自宅もそのまま残し、しかし、二人とも元の家には戻れないことでは一緒。首都圏の皆さんへのアドバイス。「重い家具や電化製品の倒壊で、逃げられない、圧死する、のを今から想定し、冷蔵庫やタンスなどしっかり固定しなさい。」「停電になる。テレビはダメ。そのときこそ情報が必要。カーラジオを聞くこと。津波の情報は刻々、だった。」。アンケート結果の多くが「話が聞けて良かった」。

第Ⅲ部「共に前へ」

４時。和光市民合唱団の７割参加。ブラームス「ドイツ・レクイエム」から２曲。私も歌うが、やはり練習とは違う緊張感と声の拡がり。４月２０日本番へ良い経験。
そして、最後はベートーベン「歓喜の歌」を全参加団体と観客で歌う。第Ⅱ部までで帰った観客も多く、場内を圧倒、までは行かなかったが、締めくくりに相応しく、全員拍手で終演。５時クローズ。外で、東池袋へ避難されている方々とその世話役の皆さんで、記念写真。そして、ロビーで「解散式」。無償で司会のプロ２人。「来年以降もずっとこのイベントを続けて欲しい」。続いて、榑松実行委員長、振興公社原田理事長、各参加団体からの一言。全てが、「とても良かった」。最後は、松本和光市長の締めと感想。「市民参加」への評価。

―支援グッズ・物産販売コーナー―

・「３１１　有志」

ロビー（ホワイエ）では、支援グッズや被災地からの海産物の販売コーナー。和光の方々の「渡和の会」（大船渡の物産販売）以外は、全て「３１１　有志」の首から名札。今回、私の呼びかけでスタッフとして働いてくれた「仲間」は、約３０人。
南三陸の中学生の修学旅行費用への支援、気仙沼大島への各種支援、石巻や女川の手作りグッズ販売での支援などに立川の大山団地への避難者１６０名を支援、など多方面。５時終了。どこも「販売好調」。海産物はほぼ売り切れ。

・「渡和の会」

昨年３月の募金と収益約 67 万円は、小中学校で津波で流され、不足した楽器の補充と、海水、泥や油にまみれた、写真の洗浄作業を行う被災者の方々の日当の一部に充当され、喜ばれた。今年は、「渡和の会」の大船渡支援物販での利益を、和光市と今も市職員を応援派遣し、提携関係のある大船渡市に利益金を送付予定。

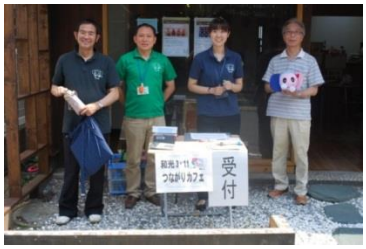
・「さくら募金」

中学生、今年も活躍。結果、２日間累計で、さくら募金 15 万。チケット販売収益 25 万と合わせ計約 40 万。新たに、和光市近隣にお住まいの避難されている方々に、同郷同士で「カフェ」で懇談頂ける「お茶飲み会」の場へご招待する企画へ使わせて頂く予定。

Ⅱ　6，9，12 月「和光３・１１つながりカフェ」

６月 16 日（月）第１回「和光３・１１つながりカフェ」

３月の「和光３・１１を忘れない」コンサートでは、「３１１　有志」メンバー約 30 人も会場での誘導係や支援物資販売などで参画。私は、実行委員として、また合唱団メンバーとして参加。その際のチケット販売や「さくら募金」の支援金約 40 万を和光市社協に寄付。
その一部は、大船渡社協に寄付。残りで、来年 3 月までの和光市近隣への避難者の集いの運営に充てる、その第１回の「今後の運営意見交換会」です。



午前９時半、和光市、イトーヨーカドー駐車場裏手にある、カフェ「アルコイリス」集合。
和光市社協３人、実行委員長、それに店の店長です。受付の準備や、机のレイアウト変更などしていると、間もなく、東池袋から、３０人前の料理を前日から作ってきた、池袋の民生委員、避難者、そして、近所の住民の３人もワンボックスカーで到着しました。午前１０時５０分、集合場所の和光市駅へ出迎え。プラカードを見て、次々とまだ顔合わせもしていない方々が寄ってきて、１１時の集合時間には、ほぼ全員到着。今回は、支援者は参加費５００円。避難者は、無料。座席は、現在お住まいの地域ごと。成増、新座、東池袋などの表示がテーブルの上に。

第Ⅰ部　自己紹介　　１１時１５分～１２時

≪ご挨拶≫社会福祉法人　和光市社会福祉協議会　　常務理事　　荒木氏
和光３・１１つながりカフェ実行委員会　　実行委員長　江頭氏

荒木さん、江頭さんから挨拶と、今年３月の「和光３・１１忘れない」イベントでの募金や収益金を活用することなど、簡単なここまでの経緯を紹介頂きました。

≪自己紹介≫

和光市近隣避難者・各支援者　　福玉便り」関係者　その他

そして、まず、支援者の方々からの自己紹介から始まりました。
豊島区社協、板橋区社協、そして、「福玉便り」編集部などの皆さんに続き、成増団地、新座公務員宿舎、東池袋公営住宅などの支援者の方々。それに和光市広報の記事を見て、参加された方など１０数名。次に、和光市内、新座市内、豊島区内、板橋区内などに避難している方々からの自己紹介。北は、宮城県石巻市、東松島市、仙台市。南は、茨城県北茨城市。そして、福島県からは、南相馬市、浪江町、楢葉町など浜通りから、福島市、白河市からの自主避難の方まで。年齢も、80 歳代のお年寄りから 30 歳代の母親まで。津波の範囲の広大さと放射能汚染の深刻さがこの参加メンバーの顔触れから分かる。

第Ⅱ部　　昼食　１２時～１３時

≪料理説明≫　池袋東地区民生児童委員協議会　東京都民生委員・児童委員　　小澤氏

料理はなんと９種類。①マミーすいとん②ミートローフ③煮物④エッグピクルス
⑤ポテトサラダ⑥五目ちらし寿司⑦おしんこ⑧あえもの⑨フルーツ（スイカ）。
和光市社協荒木常務からの発声で、「いただきま～す。」。

マミーすいとん

福島県楢葉町では、力が出る料理として、昔から「すいとん」を食べていました。
楢葉町商工会は、そうした伝統的な料理を町の名物にしようと、1999 年２月に「すいとん創作料理コンテスト」を開催しました。その時グランプリを獲得したのが、斎藤百枝さんと猪狩トシエさんのチームでした。このグランプリの味を楢葉の味にしようと 43 人で「ならはのすいとん研究会」を結成し、イベントやレセプションでの「出前」料理を開始したのです。サッカー日本代表が、Ｊヴィレッジで合宿したとき、ならはのすいとんに出会ったトルシェ監督が、フラ

ンスのおばあちゃんの味に似ているとすっかり気に入り「マミーすいとん」と命名したのです。予算内で東池袋の料理担当３人は、９時半すぎからずっと温めや盛り付けなど奮闘。結果、参加者一同、大満足！食べきれなかった料理も、パックにし、手土産で無駄なく、好評でした。ただ、８７歳の楢葉町からの避難者の方､「すいとんなんて戦時中散々食べたから食べたくなかったが、Ｊ－ビレッジの食堂で、マミーすいとんを食べ、少しは美味いと思った､」。そして、食べ終わると、「すいとんの大きさがもう少し小さ目の方が良い。」などと指南。さすが、人生経験。

第Ⅲ部　分散会　　１３時～１４時

≪テーマ≫

今後の「和光３・１１つながりカフェ」への要望や期待すること　　Ｐ７

話しの主役は避難者の方々。支援者はわき役として、アドバイスや質問を。

≪自己紹介≫

・３・１１以前のお住いと現在のお住い・避難者同士や同郷者のつながりの有無

・現在の生活上の悩み・将来への悩み　　など

≪「つながりカフェ」企画への提案≫

・故郷の情報が欲しい・同郷人との話がしたい

・イベント（「昭和の懐かし歌謡曲」合唱、手品、落語、講談・・・）で楽しみたい

・郷土料理を作って振舞いたい　　などなど

食事後、席を移動し、「宮城県」「福島県北部」「福島県南部、茨城県」の出身別で、３つのグループに分かれました。ここで、各自注文したソフトドリンクを飲みながら、すでに冒頭の自己紹介で、お互いは少しは知ったとはいえ、やはり、改めて、同郷同士の自己紹介。

１　宮城県の方々の分散会。

新座で避難者の集いを取りまとめしている東松島からの避難者が、色々な体験談。そして、石巻からの女性、「私、ホントは、磐女（旧県立磐城女子高）のいわき市出身なの。でも、同じいわきの主人の商売の関係で、いわきの船を石巻港に回す、などで石巻へ移り、海鮮問屋をやってきたの。」「福島県では、出身高校のきずなが固いですが、同級生は？」「そうなの。みんな東京の大学に進学したり、で、地元には余り残っていないの。」「魚問屋さんなら。日和山ふもとの魚長さん知ってます？」「ああ、よ～く知っているよ。あそこは、良い魚ばかりを仕入れる、良い魚屋だよ。うちの屋号を言えば、すぐわかるよ。」「分かりました。今週末、石巻に行って、魚長のバイオリン弾く女将に伝えておきますよ。」。繋がるもんだ。

２　福島県北部の分散会。

福島市内から避難しているオバアサン、「３・１１前に主人を亡くし、子供たちから、福島市内も放射能汚染が高いレベルで、こっちに逃げろ、と言われて来たの。そもそも、甲状腺がおかしく、自分でも気になっていたの。」一方、小高からのオバアサン、「小高のどこ？」「それじゃ、あの辺ね。」などと話は弾む。「今日は本当に良く来てくれましたね。こうやって同郷の人と話せるなんて。心がふあ～と軽くなった。本当に感謝します。」と、同じ小高から、３年間、和光市で避難者としては孤立したままだった女性にお礼を述べていました。その女性も、「原町の親しい友人から、いつまで避難者、避難者って（甘えて）言うの。」と言われ、「ああ、隣町の親友ですら、この気持ちが分からないのか、と哀しく、言葉も出ませんでした。やはり、小高は南相馬市全体からは、厄介者のように見られます。」。これにオバアサン「そう、町村合併などは、良い事がひとつもない。なければ良かったのよ。」　　Ｐ８

さらに、女性は、放棄してきた自宅の賠償など東電からの賠償請求書類の書き方や難しい手続きなどの悩み。「相談窓口が、首都圏では埼玉だけがなく、また、小高区の相談予約もいつもいっぱいなので、隣の原町区へ問い合わせても、それは小高区の方で聞いて下さい、と言われ、困っています。一度、東電の説明を受けましたが、なんだか分からないまま、東電の都合の良いように誘導されている感じだったので、そのまま、になっています。」

すると、新座の支援者から、「では、一度、ここへ電話してみたら？」と一枚のチラシ。タイトルが「避難生活なんでもダイヤル。月、水、金の１５時から２１時受付。」そこには、確かに「賠償問題」も例示。（ほかには、母子避難、子育て、離散家族、仕事、風評被害、ひきこもり、孤立、ストレス、進学・学校生活、住いの悩み、避難中の生活費、避難先でのいやがらせ、こころからだ交流会）タイムリーなアドバイス。福島県の支援事業で、埼玉県のボランティア団体が運営しているようでした。

３　福島県南部・茨城県の分散会。

白河市から母子避難している女性の悩みは「現在小学校６年生の子供が、転校してきたとたん、埼玉の学習レベル、進捗から遅れていて、なかなか追いつけない。かといって、家庭教師で補講してもらう余裕もない。進学のこともあり、それが心配です。」。

すると、支援者から、「私の知り合いの大学教授に、教え子でボランティアの家庭教師をやるような大学生がいないか、聞いて見る。」。また、楢葉町からの避難者は、「この間、放射能汚染廃棄物の中間貯蔵施設を楢葉町で３０年間引き受ける説明会に行ったけど、なにひとつ具体的なことになると、曖昧で、結局、行ったのは無駄だった。楢葉町は汚染の度合いが低いので、帰りたいが、このような将来が見通せない中では、帰るに帰れない。」。

第Ⅳ部　グループ発表　　１４時～１４時３０分

１　避難者発表	２　支援者感想	３　全体論議―次回開催方針へ

１　避難者発表

・宮城県の分散会報告

東松島からの避難者の方が、新座公務員宿舎での取り組みを紹介頂きながら、「野火止用水めぐりが最近では楽しかった。このような近場の散策はお勧め。それと、様々な生活上の悩みの相談を無料で行政書士や司法書士の方がアドバイスしてくれるようになった。これも、積み重ねでここまで来たので、すぐには出来ないかもしれないが、ともかく、この集いを継続すれば、次の展望も開ける。ぜひ、次回以降も継続を願う。」。また、仙台市荒浜から避難してきた方が、補足し、「出来れば、武蔵野の紅葉巡り、など良いかと。」

・福島県北部の分散会報告

私が代返。「やはり、このような機会に同郷の人と巡り会い、ほかの地域の人には話せない悩みなども共感し合え、大変有難かった。今後も、ぜひ、このような集いがあれば、来たいので、宜しくお願いします。」

・福島県南部・茨城県の分散会報告

高齢の方はこのような集まりに参加したことがないので、何も言うことはないということだったが、小学生の子供を持つ親の方は、子供と一緒にどこかに行くようなことがあってもいいのかな（参加者同士も話がしやすい）との話もあったほか、被災地と東京では学習の進度がだいぶ違っていて、学習支援を行ってほしいとの意見があった。

２　支援者発表

各支援者からの感想は、それぞれ、「今回、参加して大変良かった。」「今後に期待」など、前向きな評価と、今後も共に支援していきたい、という意思表示がありました。

３　　次回方向性

最後に、まとめとして、和光市社協荒木常務から、「今回はかくも大勢集まって頂き、また充実した話し合いが出来、良かったと思います。ついては、今日出されたご意見やご要望も踏まえ、今後の「和光３・１１つながりカフェ」運営に生かしたいと思います。そして、次回は、７月１９、２０日のいわき市内の仮設住宅訪問（311 有志の下半期報告参照）を予定しています。」

との挨拶。
こちらからは、「今日、参加して良かった、また案内をもらいたい、という方は、ご自分の連絡先住所や電話、メールなどをお書きください。一方、個人情報なので知られたくない、または、この集いの案内は不要、という方は、もちろん、任意ですので結構です。」
結果、避難者の方々からは、全員、連絡先を提出頂いたので、今後の運営が、よりスムーズになりました。

解散

２時半。事務連絡も済み、お疲れ様、と言っても、皆、なかなか席を立ちません。そして、外に出ても、別れぎわ、立ち去りがたく、あちこちで立ち話し、ようやく握手で分かれました。私たち実行委員会メンバーも、次回の７月いわきツアー参加は少数でも、別途、今回の参加者の希望を、アルコイリスか、和光近辺で実現し、多くの避難者の方々と楽しく過ごすことなど、明るく、前向きな気持ちを皆共有でき、大満足の一日でした。　　Ｐ１０

９月２３日（火・祝）第２回「３・１１つながりカフェ」

９時、和光市社協の会館集合。「第２回　和光３・１１つながりカフェ」。
第１ 部：10 時からは、地元の、元有名テレビ番組放送作家？またはプロデューサー？などのアマチュア蕎麦打ち名人たちが、「8 割蕎麦作り」の実践指導。その隣 では、黙々と「75 歳以上の独り暮らしの方にお食事を差し上げる」ボランティアグループが、「海老」「かきあげ」などのてんぷら作り。

第２部：11 時、避難者や支援者など 30 数名が別室に集合、開会の辞から始まり、12 時まで自己紹 介。病み上がりで声がうわずり気味の私が司会。宮城県石巻、仙台、福島県浪江町、大熊町、楢葉町、茨城県日立市などからの避難者 10 数名。12 時、いよい よ、天ぷら手打ち蕎麦での会食。昨日までは、全く食欲も食感も無かったが、ようやくだいぶ戻ってきた感じで、美味しく頂いた。

第３部：１時からは、平均年齢 76 歳、バンドリーダー86 歳の「バガボンド」楽団による「懐かしの昭和歌謡」。私たち「３１１　有志　合奏団」は、あくま で伴奏。でもこちらは、「専属歌手」が歌う。そして、ほとんど重ならない選曲。約 40 分。和光市社協にこの人あり、の常務理事が、特別出演。「孫」をプロ まがい。最後に、浪江出身の方々を前にお招きした。私がお送りした楽譜を独自にアレンジし、かつ「音楽大出の声楽プロ」らしき「女性歌手」が歌った「ふる さと浪江」は、私たちの知った歌とは違う、新鮮な感動だった。　　Ｐ１１

１２月３日（水）第３回「３・１１つながりカフェ」

１１月９日（日）新座「合唱の祭典」で、キャッチ！

午前の部で最も秀逸だった若者６人のアカペラグループ「Sole」。「底」という意味だそうだ。同じ高校の先輩・後輩、だという。２８グループ出演の中では、最も「正しくハモる」。選曲もアフリカの歌などユニーク。早速、予定していた友人の有名ミュージシャンが体調不良で出られなくなった１２月３日「和光３・１１つながりカフェ」の穴埋めの出演交渉。「前向き」に検討頂くことに。（結果、出演頂き、大好評！でした）

１２月３日（水）第３回「和光３・１１つながりカフェ」開催。

夕方から、「和光３・１１つながりカフェ」。浪江、大熊、南相馬、荒浜など東北からの避難者を囲んで、３０人、３時間。もちろん、いくつかの反省点はあるものの、参加者の反応から、結果良し、でした。まず、これまで仮設住宅などへ４５回も行って慰問しているグループのマジック、次に、２０代６人 「Sole」のコーラス。南アフリカの「解放の歌」など数曲。アカペラの響きが会場を圧倒。クリスマスソングなど全員で合唱。ラストは、「団塊の世代の唄」の石巻や気仙沼へ行った時の新曲。NHK「みんなの歌」８、９月の「アスナロウの木」と「故郷」全員合唱で締め。初の「望年会」。皆、「また、ぜひ呼んで下さい」、ニコニコと帰っていかれました。

Ⅲ　２０１５年３月への取り組み

４月 11 日（金）　　実行委員会開催　　―総括と来年へ始動―

本イベントまでに 20 回以上の大小会議と積み重ね、本イベントを実現した。以下、３月 16 日終了後、回収アンケートなどをもとに、４月 11 日の実行委員会（出席 15 名）で、「今年の総括を踏まえ、毎年３月、サンアザリアで「３・１１」イベントを 2021 年まで毎年開催する方針」の大筋がまとまった。

アンケート結果

回収数は観客数が残念ながら 300 人と少なかったせいで、３９人。ありがたいことに記入者全員「良かった」。

１　とても良かった　　２２名
２　まあまあ良かった　　１１名
３　　可もなく不可もなく　０名
４　あまり良くなかった　　０名

５　悪かった　　０名

また、このイベントで「自分が変化した」方、２１人。このほか、感想や、イベント全体への「良かったところ」「悪かったところ」「運営の感想」「今後の在り方」を簡単にまとめると、

「このイベントは良かった。今後も音楽中心で、長期間、サンアゼリアで毎年行って欲しい。老若男女が楽しめ、避難者の生の声が聴ける素晴らしいイベントなので、もっと近隣にもＰＲして、集客を図るべき」。次年度以降に生かしたい。

その後、４月24日、５月９日、５月29日、６月25日と回を重ね、「2015年３月14日（土）サンアゼリア大ホール、小ホール、その他施設での３・１１イベントを開催」を論議。大ホールの企画については、大筋で決定。また、この実行委員会から、収益金・募金を和光市近隣の避難者への支援に活用する「和光３・１１つながりカフェ実行委員会」が別組織として５月27日より始動した。

４月２３日（水）　和光市長へ「３月16日イベント」報告

５月７日（水）和光３・１１を忘れない実行委員会打ち上げ

７月８日（火）来年３月「和光３・１１」コンサート指揮者面談

７月１０日（木）来年３月「和光３・１１」コンサート企画決定

８月４日（月）　和光３・１１を忘れない実行委員会開催

８月９日（土）　埼玉県高等学校男声合唱団合同演奏会でご挨拶

来年３月に参加要請をする目的で、和光市文化センター「サンアゼリア」に伺いました。前日の新聞に「かつての四連、五連の復活」。高校生の男声コーラス。埼玉県は、「合唱王国」福島県と違って、県立高校が、歴史ある男子高、女子高はそのまま統合せず。なので、男声合唱が健在。１９８４年、川越、熊谷、浦和、松山の４連で始まり、２００４年を最後に開催されなくなっていたのを、私立も加え、熊谷、浦和、春日部、松山に小松原、慶応志木の６校で再

スタート！最初は各校校歌でエールを交換、以後６校の異なる持ち味がたっぷり聴けました。宗教曲、アニメ主題歌、アイヌの歌、船乗りの歌などなど色々で、飽きません。最後は、２，３年生１６０人の合同演奏。これだけでも大迫力なのに、最後は、さらに色々な制服の混じりあって２００人以上のアンコール。音量、圧巻！まして「斉太郎節」は、編曲は異なりますが、石巻で、男声で歌った曲。その時の感動が去来し、涙が出ました。最後に、高校生の実行委員長の感動的な挨拶で、壇上の全員が舞台からいなくなるまで、延々と大拍手が鳴り響いていました。そして、目的のお願いも、「お手紙」と「募集チラシ」を、指導先生にご挨拶とともに、手渡し完了しました。

8月 16 日（土）福島合唱名門高校の現役、卒業生コンサートでご挨拶

来年３月出演依頼先のコンサート。全国合唱コンクール３５年連続金賞、という信じられない全国一の安積黎明高校（旧福島県立安積女子高校）OG 在京合唱団「安積フィメールコール東京」と、安積黎明高校現役合唱団。それに友情出演の若者ばかり 60 人の男声コーラス。
午後から、杉並公会堂。多分 1100 人近くで満席。若いカップルや女学生など、いつもの年配者ばかりではありません。そして、始まった。冒頭、新旧の校歌。そして童謡の何曲かはウオーミングアップ。いよいよ、佳境。難しい宗教曲や信長さんの歌など、女声、男声入り混じって。素晴らしい！ブラボー！拍手鳴り止まず。これまで行ったどこのコンサートより、拍手の時間が長かった気がしました。終わって、帰り際、ご招待頂いた代表と、来年３月「和光３・１１」でこの歌声が聴ければ、と挨拶。

8月１７日（日）　「プログラム」ひな形、作成開始

8月 22 日（金）　浦和の合唱団の練習で、参加呼びかけ

夜、いつもの合唱団の練習を欠席し、浦和の初めての合唱団練習へ行きました。来年「和光３・１１」の合唱への勧誘。幸い、ここには、３人の合唱団仲間がいて、2012 年、そして今年と、夏前の「チャリティコンサート」での収益金や募金を、私の「３１１　有志」支援金に寄付頂いているので、すぐに受け入れて頂き、着くと、「じゃ、まず、一緒に歌って」。
宗教曲と谷川俊太郎の歌詞の歌の合間の休憩時間に、私から、募集チラシを全員に配り、勧誘！

すると、早速、少なくとも数名が参加希望。９時終了後、浦和駅近辺で、仲間３人を含む７人で飲みました。そこで、また各人の田舎話や祖先話、そして合唱話で盛り上がり、11 時過ぎ解散。皆さんが加入しているほかの合唱団にも、参加の声掛けをしてくれる、と「募集チラシ」も用意した全部がさばけました。団長など初対面の皆さんからも「今日は最高！」。と。

８月２３日（土）　志木の第九合唱団の練習で、参加呼びかけ

今度は、志木市の合唱団練習訪問。全員知らない方々。でも、団長も事務局長もメールや電話ですでに連絡をとっていたので、「初めて」の気がしない気安さでした。８時すぎの休憩で、冒頭、団長から「先日の練習時に話した和光の件、今日は事務局の齋藤さんが来てくれた。基本はなるべく全員、大勢で参加しよう。」と心強い紹介を頂く。

それから５分強、「和光３・１１」コンサートへ「技術ではない。気持ち」での参加呼びかけました。特に「女川の女声合唱団は、団員３人を津波で亡くし、練習場所も無い中での話を聴き」などと言うと、涙する方も。そして、「３月１４日は、本来、この合唱団の練習日。でも、これにみんな参加できるよう、練習は無しにした。」と事務局の方が補足して頂き。終わりに全員から拍手。そして、次々と寄ってきて、「石巻にはボランティアで３回行ったの」「必ず参加する。」などと前日に続き、暖かい反応。

８月 24 日（日）　映画監督、写真家の「対談打ち合わせ」

来年３月の「和光３・１１」で３日間の被災地写真展と対談２組を企画。その展示物と対談カップルの映画監督佐藤武光さんと写真家高木成幸さんの２人に会える、というので、佐藤監督からお誘い頂いた、「中学生が作る映画」上映会に伺う。初の都庁内、都民ホール。観客は、参加中学生の親兄弟など 90 人弱。見知らぬ中学生同士が３チームに分かれ、シナリオ、俳優、カメラ、音声、ＢＧＭなど役割分担し、苦闘の末、作り上げた４本。大人には決して作れない、中学生たちの「現実」の投影。とても、心新たな世界に触れました。そして、終わって、場所を変え、渋谷で「打ち合わせ」を兼ねた「打ち上げ」。これがまた、素晴らしい体験。監督佐藤さん、写真家高木さんは無論、中学生をティーチングしたシナリオライター、若き映画監督や助監督や 20 代の映画学校の学生ら、２０歳代と触れ、新たな妄想が湧いてきました。

8月28日（木）　コンサート担当実行委員の下打ち合わせ

8月30日（土）　石巻中学出身の在京組織へ　応援要請

都内の「石巻マルシェ」で、石巻市石巻中学校の在京卒業生団体「東京石中会」幹事会に伺い、懇親会で交流。「和光３・１１」への様々な支援・応援策を話し合いました。

９月１日（木）　和光３・１１を忘れない実行委員会

午前 10 時から、和光市社協で「和光３・１１」実行委員会。まず、９月 23 日「和光３・１１つながりカフェ」について、和光市社協より説明と質疑、その後、今度は、来年３月 12～14 日の「和光３・１１を忘れな い」イベントの経過報告と質疑。様々な意見を集約。前回の実行委員会からは、数段、ステップアップ。やることの多さも分かってきた。そして、「サンアザリア」チケット売り場で、12～14 日の各施設の予約修正。ほぼオケ、 合唱の練習会場も確定。

９月５日（金）　県立福島高校在京ＯＢ合唱団へ参加要請

夕方、都営新宿線幡ヶ谷駅近くのホールで練習中の福島県立高校 OB の在京合唱団訪問。
休憩時間に、来年３月和光３・１１のコンサート参加を呼びかけました。目をつぶっていれば、平均年齢 76 歳、とは思えない声量のハーニー。聞けば、昭和 30 年代、高校合唱部から大学合唱部へ、の方も少なくないらし い。昨日は欠席した事務局長？は、慶応大ワグネルの部長だったとか。合唱歴３年ちょっとの私とはキャリアが違う。恐れ入りました

９月６日（土）朝霞・新座の公民館に「合唱募集ちらし」設置

新座 ふるさと館内野火止公民館、志木市いろは遊学館、そして朝霞（中央・東・西・南・北・内間木）公民館、膝折市民センターの計８箇所の公民館・市民センター 巡り。すべてに各々２０枚の「和光３・１１コンサート」合唱チラシを置いてもらえた。

９月１０日（水）慶應志木ワグネル指導先生を訪問

樽松実行委員長と、慶應志木校へ。２年連続参加の「ワグネル男声合唱団」、来年３月 14 日の「和光３・１１」の合唱参加要請。合唱団指導、吉川先生へ 30 分の全体説明と、個別相談。

２週間後の定演を控え、困難な状況だが、本イベントそのものの意義と高校生が参加する意義の大きさから、「出来る範囲」の参加 方策を模索、「これなら出来る」という選択で、合唱団 50 人の団員と、任意で声賭け頂く OB の皆さんの参加がほぼ見通せることとなった。凄い力！この２年 間の観客アンケートで、ダントツの「高評価」だった。来年も、また若い、そして力強い歌声が聴ける。嬉しくて「天にも昇る」「舞い上がった」気持ち。

９月１７日（水）「和光３・１１コンサート」指揮者・合唱指導者初顔合わせ

５時半から９時近くまで、「コーヒー」一杯で、「和光３・１１」コンサート指揮者佐々木さんと合唱指導者佐藤さんとの打ち合わせ。お二人同士は初顔合わせ。これまで、メールのやり取り中心だったので、色々とごっちゃになっていた部分も、大幅に整理整頓。

特に、全体の流れの確認、練習日程確認、「ふるさと の四季」合唱のヴァリエーション確認、石巻現地での練習など主に合唱、一部オケの課題が明確になり、大筋の役割分担や意思統一も出来た。また、大幅前進！

９月２６日（金）　所沢の第九合唱団へ　参加呼びかけ

所沢第九の会へ。メールがない事務局、葉書と電話のやりとりで、ようやく訪問と相成った。今日は中央公民館。観客席から歌う。実は、私は第九を歌ったこと がない。なので、この２時間、第九第四楽章の合唱でだし、練習番号Ｄの少し前、２３７小節「アレグロ　アッサイ」から７２９小節、練習番号Ｒの前まで。大 変楽しかった。が、今日は、それが目的ではない。休憩時間に、５分ほど、「和光３・１１」での第九参加を訴える。練習再開。すると、合唱指導者「私、福島 出身なんです。安積女子 OG ってコールフィメール東京のことでしょ？凄いですよ。それにテナー渡邊公威さんと同窓なんで、良く知ってます。日本のパバロッ ティイ、って体形のことかな？とても素晴らしい歌い手。ここでちゃんと練習して、３月に出ましょう。」

１０月４日（土）　安錘フィメールコール東京へ参加要請

目白の教会で練習中の 「安積フィメールコール東京」を尋ねる。約束より一時間近く早く行ったので、まず、途中の行列の出来た「パン屋」に並ぶ。それから、教会入り口にいた猫た ちと遊ぶ。そして、中に入ると、「歌が生まれる」という曲の練習中。まだこの曲の練習は２回目、というが、どうしてどうして。さすが、福島県合唱王国の中 でもトップ、「安積女子」（現安積黎明）OG。細かな部分はこれから、という段階らしいが、充分、聞かせて頂いた。そして、終了後の２０分近く、「和光 ３・１１」コンサートへ「組織参加」されるので、簡単に概要を説明。フォーレ「レクイエム」を全員で練習する、というが、ベートーベン第九を歌ったことの ある方にも挙手頂いたら、結構おられた。帰り際、代表の方から、色々とこれまでの支援関連の活動や、来年6,7月の「３・１１絡み」のコンサートのお話も 聞けて、有意義だった。

１０月６日（月）　和光３・１１を忘れない実行委員会

台風の中、１０時から、和光市社協で「和光３・１１を忘れない実行委員会」。２時間、事前に配布した資料やレジュメで､びっちり論議｡様々な壁や課題がこれまでにどんどん乗り越えられ、しかし、まだまだ次の壁、課題が立ちふさがる。それも、それぞれの提案やアイディアなどで、また具体的に越える見通しが見える。そんな充実した会議。会議が１２時ジャストに終わると、先ほどまでの豪雨が嘘のよう。 遠方に富士山がくっきり。そして外の車は､「洗車」したて。市役所の食堂で昼食後、まずは、サンアザリアチケット売り場で、来年の練習会場の一部追加、変更の相談、そして､「後援」申請書を役所の中を２箇所回って帰宅。

１０月１２日（日）　新座の合唱団で参加要請

午後から新座の小学校での「フィルハーモニーコーア新座」の練習に参加。１２月７日（日）新座市民ホールでオルフ「カルミナ・ブラーナ」の「トラ（エキス トラ)」で初めて伺う。私としては、１年半ぶりの曲を、全曲通しだったので､「出来ないところ」を再確認できたし、なにより、歌うことが楽しめる曲。そし て、もちろん､「和光３・１１」コンサートへの参加呼びかけの是非をお尋ねすると､「大歓迎」。初対面の団長、副団長、指導者の好意的コメントを頂き、なんと、帰り際の申込者２０名以上。嬉しかった。

１０月１７日（金）　「さくら募金」朝霞市内へ設置

午後から､「募金箱営業活動」、軽く試運転。まず、行きつけの床屋高梨。次に、妻の趣味、お茶のための和菓子を買いに行かされる和菓子屋青柳。いずれも２代目店主が、笑顔で「ぜひ、置かせてください｡」。そして、朝霞の「名店」、馴染みの蕎麦屋、

１０月１８日（土）県立長崎北高校在京卒業生合唱団へ参加要請

午前 11 時、神田のスポーツセンターで練習している合唱団、県立長崎北高 OB・OG 合唱団「コール N」へ伺い、「和光３・１１」に全 30 名で参加申 込へのお礼と、概略ご案内、質疑。福島との「被爆県同士」の連帯での参加申込。ありがたい。そこで出会い。和光市社協に娘が勤めている母親、慶應志木高で合唱をやっていた 27 歳、先般私が石巻でお会いした合唱 連盟重鎮と、今月 26 日、仙台のコンサートで一緒、という団員指揮者・・・。ピアノ伴奏者も仙台の津波でやられた海岸が実家。終わって 12 時。20 名近くで、神田の寿司屋で、懇親。

１０月１９日（日）新座、和光の合唱団で３月コンサート参加公募

Ｐ２０

午後１時から、新座の小学校で、１２月本番の「カルミナ。ブラー ナ」練習。この合唱団の「和光３・１１」参加者集約は、今月中。数十人の期待。３時に終わり、和光市サンアゼリアへ移動。「ドイツ・レクイエム」練 習に一時間遅れで参加。休憩時、「和光３・１１」申込、後を絶たず。この合唱団の「初申込」。３０人近くに。これで、そろそろ、目標人数３００人規模になりそう。

１０月２１日（火）和光市教育委員会後援認可

午後から、まず、「和光３・１１」イベントの「和光市教育委員会」の「後援」許可が出たので、実行委員長と駅で待ち合わせ、許可証を取りに。ついでに「和光市」の後援許可を聴きにいったが、もう暫く、とのこと。その後、和光市文化振興公社、和光市社会福祉協議会始め、ゴルフ練習場、レストランなどで「さく ら募金箱」を置いてもらう。早速足りなくなる。なので、帰りに１００均に立ち寄り、大手には置いていない「貯金箱」を１００個発注。来週以降の入荷。暫く 「募金箱」営業活動は休止。

１０月２４日（金）和光市内で、「さくら募金」協力呼びかけ

「和光３・１１」実行委員長と１１時、和光市駅待ち合わせ。和光市役所へ行き、「イベント後援」認可証を受け取り、和光市文化振興公社で、昨年の「和光３・１１」イベントプログラムの在庫をもらい、先般、行き損なった店へ「募金箱設置」営業活動。

①ブティック＆テーラーミヤサカー夫婦で合唱好き、と、全曲で合唱参加の意向も。実行委員長は、会議がある、とのことで、駅へ。以後、ひとり。

②鈴木園芸生花店ー誰もが、行けば？という先。社長快諾。忙しそうなので、後日、再訪予定。

③カフェ「ツーテンジャック」ー裏通り、突き当たりのベーグルサンドが美味い「隠れ名店」。店主は、和光市民合唱団。ドイツレクイエムの際、参加していた 理研のドイツ人留学生が寄宿していた。もちろん、快諾に加え、福島から避難している２０代の女性常連客を紹介頂くことに。

④カフェ「アルコイリス」ー和光市の補助で「地域活性化」「雇用創出」で出来た。６月に第１回「和光３・１１つながりカフェ」の会場で使い、また１２月にも第３回目を予定。店長、副Ｔ店長に説明し、了解取り付け。

１０月２８日（火）メガバンク３行へ「実行委員会」口座新設へ

「法人」と「個人」の中間？の「任意団体」、かつ 実行委員長名、でなく、事務局長、齋藤名義で口座新設は難関！４行回る。ともかく、どこも窓口は、困りはて、マニュアルや横のパソコン画面をやたら検索しても足りず、席を立って、奥へ相談に行くことは共通していた。

①三井住友銀行ー所要時間４５分。特には問題なし。審査のあと、２週間後開設。

②三菱東京 UFJ 銀行ー所要時間２時間１５分。こちらが不安になるほど、不安な顔。そしてたびたび先輩？に相談、中断。が、細かい、訳だった。その場で通帳を発行してくれた。

③みずほ銀行ー所要時間３０分。案の定「代表者じゃないと。」というが、ひと言、二言言うと、書類受理。審査後、開設は１０日後。

④ゆうちょ銀行ー所要時間３０分。こちらも、「代表者」=「実行委員長」と難航しかかったが、「メガ３行とも事務局長で受けた」ことを伝えると、また長く中断。で、「会則の最後に、この

文は正しい旨、実行委員長の印鑑を下さい。」。なので、出直し。当分、作らない。

10月30日（木）「さくら募金」から「遠征費用募金」へ切り替え

某助成金申請するも、採用されず、「石巻からのオケ・合唱団遠征費用」を募金で賄うことに方針転換。１００均の「貯金箱」ならぬ「募金箱」を 100 個受け取り、ラベルを貼って、「遠征費用募金箱」50 個。（さくら募金用に 50 個）。チラシも、作成。100 万円集めるスタート！

１１月４日（火）　和光３・１１を忘れない実行委員会

１１月７日（金）テレビ埼玉で取材交渉

浦和駅を降り、裏道のお寺などを見ながら歩いていると、突然呼び止められた。見れば、元の上司。２０分雑談。「遠征費用募金箱」に、「ゴルフ行った、と思えば」と１万円札をねじ込んだ。午後１時、テレビ埼玉社員と打ち合わせ。浦和の合唱団メンバーで、実業家の女性の仲介。

「頼みもしないのに」。昨年６月「カンタータ大いなる故郷石巻」をバスでご一緒頂いたご縁。「和光３・１１」の「プレゼン」。社内の情報番組やニュース番組などの部門へ打診してくれる、という。こちらの狙いは、あくまで「遠征費用募金振込み増」「当日来場者増」。「いやいや、うちの影響力、ほとんど期待しないで下さいな。」と率直。だが、放映されたこと自体が、次のＰＲに使える。ぜひ、取り上げて欲しい、と要望。雑談も半分の２時間。

１１月８日（土）東日本大震災「和光市民まつり」と募金活動

午後から、毎度の「サンアゼリア」。和光市民まつり。アルコイリスカフェや和光市福島県人会、渡和の会（大船渡支援）などが軒を連ねる。そして、大ホールでは、市民コンサート。知り合いが次々と指揮やリードボーカル。和光市のゆるきゃら出演に子どもたちが沸く。3 時すぎ、終了。直ちに、六本木一丁目駅へ向かう。

夜は、「以前の職場」の「同期会」。42 人参加。北は北海道、西は大阪、広島からも。事前に 42

名分、「同期の皆様へ　支援協力を！」のレターと募金要請チラシなどを準備、受付で配布。また各テーブルに「遠征費用募金箱」。な募金には最高のタイミング。持参した６個の募金箱のうち、２つは、ほぼお札で満杯に。外からはいくら入っているのか、判別困難。

１１月１０日（月）和光市内のカフェへ募金箱

午後、三井住友銀行新座志木支店で、「和光３・１１を忘れない実行委員会」のキャッシュカード受け取る。それから、和光市へ。まだ「さくら募金箱」を「遠征費用募金箱」に差し替えていない２箇所訪問。いずれもカフェ。両方とも笑顔で差し替え。すると、あとの方では、「初の」プログラムに「協賛店の名前」申込。やばい。領収証がまだない。

１１月１５日（土）大森の「復興マルシェ」にも募金箱

朝から、１１月２９日、３０日に伺う５箇所の仮設住宅などへのチラシと、自治会長宛にそれぞれ異なる内容を含む挨拶レターを作成し、投函。その足で、和光市社協へ立ち寄り「遠征費用募金」チラシを補充、のあと、大森の「復興マルシェ」へ募金箱とチラシを置いてもらう、

１１月１６日（日）ヴァイオリン発表会でも募金

「ヴァイオリン教室の生徒発表会」。生徒でもない、私はチェロの無伴奏ソロ２曲。
帰り際、観客も含め、全員に「石巻オケ・合唱遠征費用募金」のチラシを配布し、会場入り口においた募金箱に入れてもらう。さらに、打ち上げは鶴見駅近くの中華料理店。生後７ヶ月の赤ん坊やジジ・ババも加わり、２４名で盛り上がり、そこでも、最後に募金呼びかけ。全員が入れた、と誰かが言っていた。

１１月２２日（土）「ゆめあい和光まつり」で、管楽器、避難者との「バッタリ」

午前１０時すぎから１２時まで、和光市社会福祉協議会主催の「まつり」に。顔見知りの豊島の社協の方も感心していたが、ともかく色んな団体が３階建ての各フロア、各部屋で催しで来場客も溢れんばかり。着いたとき、演奏していた「管楽器メンバー」。声をかけると、なんと半数はアマオケ、新座交響楽団の面々。早速、来年３月のお誘い。乗り気に。そして、今年の３月の「和光３・１１を忘れない」イベントで、宮城県と福島県からの避難者の方にステージで色々話して頂いた方が、同じ豊島区在住の楢葉町からの避難者の方や民生委員などとバッタリ。

１１月２５日（火）新座交響楽団団長と面談。「３月」へのお誘い

午前１０時半から、１２時まで、新座市の「ふるさと館」で、新座交響楽団団長と、「和光３・１１を忘れない実行委員会」の実行委員長ら３人で面談。合唱の募集が大人２５０人、中高生１００人、と、ひと段落し、オケ募集を、順番に開始。まず、地元、和光市民オーケストラ。そして、この新座。

団長からは、主旨はよく分かったので、オケの練習でメンバーに打診する、１２月１４日まで待って欲しい、と協力を約束してくれた。

１２月１日（月）「和光３・１１を忘れない実行委員会」

和光市社協３階。テーマ盛りだくさんの２時間。その後、和光文化振興公社へ立ち寄り、暫し情報交換。その後、イトーヨーカドーで、１２月３日「つながりカフェ」３０人の寿司予約や、オードブルなど下見し、会場となるアリコイリスカフェで「ショバ代」「飲料代」と持ち込み食事の打ち合わせ。それから、和光市中央公民館で、「公民館使用認定団体」承認され、カード受け取り、１～３月の「和光３・１１」コンサート練習会場、予約。

１２月７日（日）新座の合唱団「カルミナ・ブラーナ」演奏会に、合唱参加。

来年３月和光３・１１コンサート（注）に多数参加いただく「「フィルハーモニーコーア新座」第２回演奏会「カルミナ・ブラーナ」演奏に合唱参加しました。

新座市民会館大ホール。２時開演。午プログラムに「石巻遠征募金チラシ」挟み込みと、開場後、そして終演後の「募金」係をやってもらった。結果、１万円ほどのカンパが入りました。

さて、本番。６００人の観客、圧倒的声量のドイツ人バリトン、わずか数分の一曲のために来日したリトアニア人テノール、その妻、滑らかな高音、アメリカ 人ソプラノに魅了される。また、打楽器（とピアノ２台）の伴奏も７０人ほどの合唱には、オケ版より向いていたし、聴き応えもあった。打ち上げ。ソリストたちのサイン会もあり、盛り上がりました。

１２月１２日（金）「表現者４人」打ち合わせ

来年３月「表現者の対談」をして頂く映画監督佐藤武光さん、写真家高木成幸さん、歌人三原由起子さん、詩人宮尾節子さんの４人との打ち合わせ。　　Ｐ２５

午後４時、佐藤氏、高木氏を写真展「漂流ふくしま」の会場、サンアゼリア「展示ホール」にご案内し、見学。タイトル「漂流ふくしま」とし、再度、打ち合わせすることになりました。

午後５時　詩人宮尾節子氏、歌人三原由起子氏合流。打ち合わせ後、交流会。

交流会では、上記展示には、三原さんの短歌や宮尾さんの詩と、それに相応しい写真の組み合わせや、佐藤監督の撮りためた被災したばかりの双葉郡の映像１００時間をテレビ画面に流しっぱなしにする、未着用の防護服をマネキンに着させる、など色々なアイディア。そして、宮尾さんが、福島に想いを寄せて作った詩の朗読、高木さんが最新の放射能汚染物焼却施設の「本邦初公開」動画披露。最後に、三原さんと宮尾さんの著作を譲って頂き、大いに盛り上がりました。

１２月１４日（日）所沢「第九」へ。

所沢の航空公園隣接の大ホールで、所沢第九の会の「弟九」。入場料無料だが、葉書が必要。「和光３・１１」にオケから 10 人、合唱から 15 名参加頂くので、ご挨拶と、資料の手渡し。

今年で弟３２回目。２０２０人収容の所沢市民文化センター「ミューズ」アークホール。開演４５分前ですでに４列の長蛇の列。開演時には、４階席、舞台裏のパイプオルガン前の席まで。弟九の前に、パイプオルガンでバッハ２曲。さて、弟九。指揮北原幸男。いよいよ、戦闘開始！の弟４楽章。チェロ、ああ貴方のための曲よ、と優しく主題を歌うと、ソリストが、合唱が、雪崩を打って咆哮！全員暗譜。３階席の後ろでも、バンバン響く。久しぶりの弟九。終了後、ホワイエで会おう、という合唱やオケの方は、凄い混雑で合えず、収まるのを待って、楽屋裏へ。そこで、来年３月「和光３・１１」に参加頂くヴァイオリンの方々やホルンの方と、次に、着替え中の合唱の楽屋で、男声３人が名乗り。「初めまして。」。無事資料手渡せました。

１２月７日（水）「和光３・１１」合唱指導、佐藤さんの「卒業演奏」

午後３時半、日大芸術学部東棟６階音楽室小ホール。

来年３月「和光３・１１を忘れないコンサート」では、１月３１日より７回もの合唱練習があります。その指導をしてくれる大学院生佐藤圭さんの「大学院終了演奏 審査会」。４人の声楽の発表のトリ。合計５０分の持ち時間を、全て暗譜、ピアノ伴奏で歌う。佐藤さんは、ヘンデル「メサイヤ」、バッハ「ヨハネ受難曲」 「カンタータ」のバロックを選びました。難曲です。私も、バッハ練習中。興味津々。さて、開始。声が温まり、順調。難しいパッセージもなんのその。最もきつかったのは、 多分、中盤。短調の音程の上下が難しいところも、無難にこなし、見事、「ブラボー」！審査席３人の先生も、満足げだった。お疲れ様。ございます。

１２月２２日（月）日大教授と、「さんりく物産」販売打ち合わせ

神田駿河台の日大理工学部へ。ひょんなきっかけで、「地域まち作り」の教授と面談できることになりました。岩手県三陸海岸の零細業者を支援している「さんりくチャレンジ」のトップ。復興庁、複数の大企業、東京芸大 も絡む大掛かりなプロジェクトです。１０時半から１時間、沢山のお話を聴かせて頂き、当面、来年の２月２７日北区王子「岩手物産販売イベント」を見学、３月１４日「和光３・１１を忘れないイベント」での海産 物や農産物をホワイエ（ロビー）などで販売することが決まりました。また、おまけに、継続的にスクラムを組もう、という申し出まで頂きました。これまでの第１の柱、「宮城・福島被災地仮設・音楽支援」第２の柱「首都圏避難者の集い支援」に加え、第３の柱の「岩手県零細生産者支援」。１人から５０ 人以下の零細自営業を継続的に支援するという大きな仕事を恒常的に手伝って欲しい、との要望。「３１１　有志」や「和光３・１１を忘れない実行委 員会」の枠からはみ出し、私個人の一層の飛躍と時間配分が求められることになりそう。明るい気持ちと、困った気持ち、でした。

１２月２３日（火）渋谷カフェで「募金」

夜、クリスマス一色の渋谷でのの「クリスマス忘年会」。20 人限定の８割は、話し方教室メンバー主体で私とは初顔合わせ。残り２割知り合い。ジュジュ、らしき物まね芸人の出し物もあり、盛り上がり。最後に、参加目的の「遠征費用募金」をしっかり頂きました。

１２月２４日（水）「和光３・１１」チラシ出来！即配布！

朝、「和光３・１１イベントちらし１万部」到着！最高のクリスマスプレゼント！
そして、下北沢駅南口へ。徒歩１分、「空間りばてぃ」。
午後２時から、講談師神田京子独演会昼の部。「義士伝」が始まる前、受付での募金箱設置と、プログラムにちらし挟み込み。２時間の熱演を観て、いったん、休憩。その間に歩いて10分。

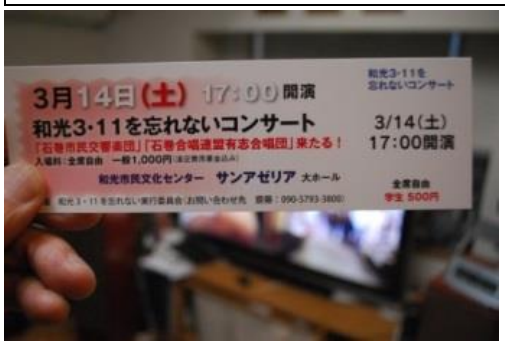
「ふくしまオ ルガン堂」へ。福島の有機野菜販売やそれを使った定食などを出す。有機コーヒー飲みながら、福島県話。特に福島県人も知らないイラスト展示していた作家の 地元、金山町の話。「和光３・１１」チラシや「遠征費用募金」チラシを置いてくれました。そして、また、「空間りばてぃ」へ戻り、午後７時からは神田京子独演会夜の部。「レ・ミゼラブル」と「元たま」のボーカル「柳原陽一郎」氏ミニコンサート。午後９時終了。２回合わせて 120 人以上の観客に、「和光３・１１」チラシが配れ、募金も頂きました。

１２月２５日（木）「和光３・１１」写真展示打ち合わせ

佐藤武光監督「立入禁止区域・双葉～されど我が故郷～」

午前１０時。和光市社協へ「和光３・１１ちらし」７０００部分を持参。少し、打ち合わせ。その後、同じくちらしをチケット販売委託先の文化振興公社へ１０００部持参。
１１時から和光市民文化センター「展示ホール」で、「和光３・１１」イベントの写真展示を、写真家、映画監督、自衛隊広報も入り、打ち合わせ。方向は決まる。映画監督の車、さすが。

１２月２７日（土）「和光３・１１」チケット出来！



チケットが来ました。会場の大ホールは１２８６席（1 階 842 席、２階 438 席、車椅子席４席、親子席２席）一般（遠征費用募金込）１０００円。学生５００円。中高生も１００人出演するので、友達２００人ぐらい来て欲しいなあ。３・１１避難者も１００名程度ご招待します。

１２月２９日（月）「和光３・１１」ポスター出来！

ポスターも届きました。400 部。年明けには、和光市文化振興公社、和光市社協や、和光市・朝霞市内の募金協力店（レストラン・カフェ・ゴルフ練習場・和菓子屋・蕎麦屋さんなど）や参加合唱団の練習会場などで掲示されます。線量計は、左下に写っている写真の現物です。ちなみに写真では､福島第１原発ゲート前の国道６号線開通当日､９月 15 日に測定した放射線量｢３．３１μSv／時間」の「異常値」表示です。バイク・自転車通行禁止、車の窓開放、換気・エアコン作動を控える場所。11 月 29 日に通行した際は「４．67μSv／時間、年間換算値では 50 mSv」でした。３・１１を忘れない、は過去形、でなく、現在進行形なのです。